

ずきん3号」,「京都大納言」は簡易
土壌水分計の指示値-30cmで灌水
を行うと,土壌の乾燥による着莢不良
を回避できるため,収量が確保でき
ると考えられた。

一方,開花期~着莢期が梅雨時期の
6月下旬となる「夏どり丹波黒2号」
は土壌の乾燥害は受けにくい,降雨
による一時的な滞水や土壌過湿による
湿害が懸念されるため,簡易土壌水分
計の指示値-30cm~-60cmでの
管理が適当であると考えられる。大豆
の生育期間の湿害の影響として,大豆
の花蕾数,着莢数,収量が減少するこ
とが報告されている(古畑ら2011)。
FOEASほ場では,降雨時は暗渠を通
じて積極的な排水を行うため,滞水に
よる湿害を回避できると考えられる。

これらのことから,FOEASの導入
により,黒大豆および黒大豆エダマメ,
小豆の生育・収量の向上が可能となる
ことから,今後,特産豆類の栽培管理
技術として導入されることが期待され
る。

引用文献

- 古畑昌巳ら 2011. 圃場排水性の良否が北陸
地域のダイズの乾物と子実生産に及ぼす影
響. 日本作物学会紀事 80 (1) ,65-72.
京都府農林水産技術センター 2010. 普
及に移す平成21年度試験研究成果.
[http://www.pref.kyoto.jp/nougijyutsu/
documents/1349936640739.pdf](http://www.pref.kyoto.jp/nougijyutsu/documents/1349936640739.pdf) [ア
クセス確認:2019年10月10日].
京都府農林水産技術センター農林センター
2018. 地下水位制御システム(FOEAS)
導入圃場における高収益輪作体系導入
マニュアル.
農研機構 2009. 地下水位制御システム

(FOEAS)による大豆の安定生産マニユ
アル. [http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_
report/publication/pamphlet/tech-
pamph/003839.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/003839.html) [アクセス確認:2019
年10月10日].

農研機構 2010. 簡易土壌水分計による
かん水時期判定技術. [https://www.naro.
affrc.go.jp/project/results/laboratory/
warc/2009/wenarc09-03.html](https://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/warc/2009/wenarc09-03.html) [ア
クセス確認:2019年10月10日].

農研機構 2016. 水田輪作における地下水位
制御システム活用マニュアル増補改訂版.
[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_
report/publication/pamphlet/tech-
pamph/052038.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/052038.html) [アクセス確認:
2019年10月10日].

岡井仁志・尾崎耕二 2008. 開花期および英
伸長期の水ストレスが黒ダイズの結莢に及
ぼす影響. 日本作物学会講演会要旨集, 第
226回日本作物学会講演会, 182-182.

田畑の草種

蓬・餅草・艾・指燃草(ヨモギ)

キク科ヨモギ属の多年草。本州以南の山野,路傍,畑などに
自生する。背丈は50cmから1.2m。地下茎を四方に伸ばし,
しばしば大きな集団を作る。葉は羽状に深く裂けさらに裂片も
葉縁が切れ込む。表面は明るい緑色,裏面は白い毛が密生して
いて緑白色に見える。花期は8月から10月。茎の先の小枝に
淡褐色の目立たない花を穂状につける。ヨモギはキク科には珍
しく風媒花である。花の時期には大量の花粉を周囲に飛ばし,
秋の花粉症の原因の一つとされる。

在来種で古代から利用されてきた。特有の香りがあり,その
葉の精油成分はハーブとしての効能もみられている。成長した
葉の裏側の白い毛を集めたものが「艾」であり,葉を採取後乾
燥させたものは「艾葉」という生薬になる。一方で早春の若葉
はお浸しや天婦羅,さらには草餅にもなる。

そんなヨモギであるが,古事記には現れず万葉集でも1首
で歌われただけであった。

ところが平安時代になると貴族達はヨモギに想いを寄せるよ

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

うになる。清少納言は枕草子の中で,牛車の車輪に踏まれたヨ
モギの香や端午の節句の菖蒲や蓬が香り立つのを「をかし」と
し,「草は」の中でも「蓬,いみじうをかし。」とする。一方で,
平安時代中期以降になると「蓬」は「浅茅」や「葦」などとと
もに荒廃した邸宅を象徴する景物になり,「蓬生」「蓬の露」「蓬
の宿」「蓬の末」などの語句が用いられるようになってくる。
紫式部は源氏物語の第十五帖の「蓬生」の中で,末摘花の住む
邸宅は「かかるままに,浅茅は,庭の面も見えず,しげき蓬は
軒を争ひて生ひのぼる」ほどの荒れた屋敷であったと孤独で寂
しい響きを持たせた。

蓬を詠った歌人達は,その香りか「蓬生」の寂しさを詠うこ
とが多いようである。近代の歌人と謝野晶子は香り立つ蓬や蓬
生を詠った。

古里の蓬の香など匂ひ来よ 松立つ街の青き夕ぐれ(火の鳥)
鎌の刃の白く光ればきりぎりす 茅萱を去りて蓬生に啼く
(青海波)